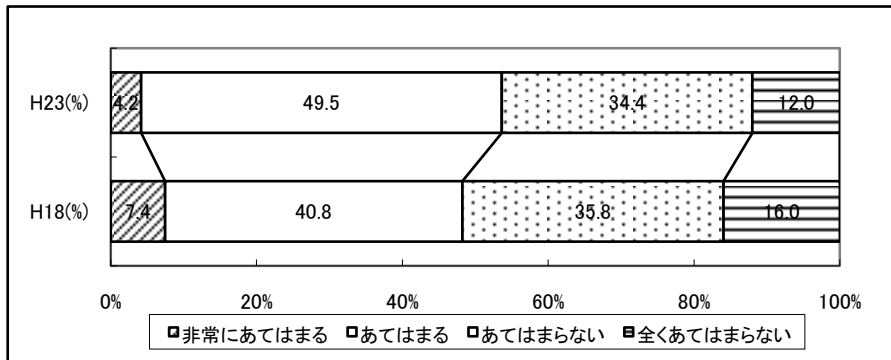


〈学部在學生〉

Q54 大学の教育にまとまりがあり、一貫性があった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	21	8
あてはまる	115	95
あてはまらない	101	66
全くあてはまらない	45	23
計	282	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	7.4	4.2
あてはまる	40.8	49.5
あてはまらない	35.8	34.4
全くあてはまらない	16.0	12.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

まとまっているかわからない。2人

一貫性を持ってほしい。2人

先生が自分の担当以外の教科を把握して欲しい。4人

先生によって評価の仕方が違ってくると思う。

カリキュラム変更の通知を早く、正確にしてほしい。2人

【評価と今後の対策】

大学の教育にまとまりがあると回答したのは平成18年と比較してわずかに増加が見られたが、半数程度にとどまった。

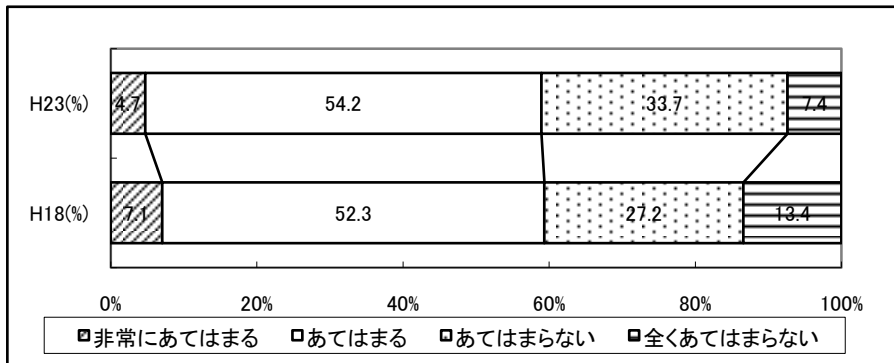
カリキュラムの変更や教科書の変更についての理解不足が不満としてあることが推察され、前回の教員間又は教員と事務との連携強化の改善は見られない。一層の連携強化と、カリキュラム改正があったことから、改正の当該学生のみでなく全学生への説明が必要と考える。

〈学部在学学生〉

Q55 基本科目に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	20	9
あてはまる	148	103
あてはまらない	77	64
全くあてはまらない	38	14
計	283	190

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	7.1	4.7
あてはまる	52.3	54.2
あてはまらない	27.2	33.7
全くあてはまらない	13.4	7.4
計	100.0	100.0



【自由記載】

化学、生物は授業をしている意味がよくわからなかった。3人

講師による内容が不十分。

科目は良いけど教える先生がもっと工夫して欲しい。自分の専門を看護や保健につなげて欲しい。

生物、化学、英語をもっとレベル高く、将来に渡って使えるような授業が良い。2人

選択肢が少ない。

2人

在宅看護論なども取り入れてほしかった。

教育系の科目を入れるなら、学校保健の科目も充実させてほしい。

社会・外国語の授業が多い。もっと医療・看護の時間を増やして欲しい。

【評価と今後の対策】

基本科目への満足は平成18年度と比較し変化が見られず、6割程度であった。選択肢の少なさ、内容、看護との関連性への不満がみられた。

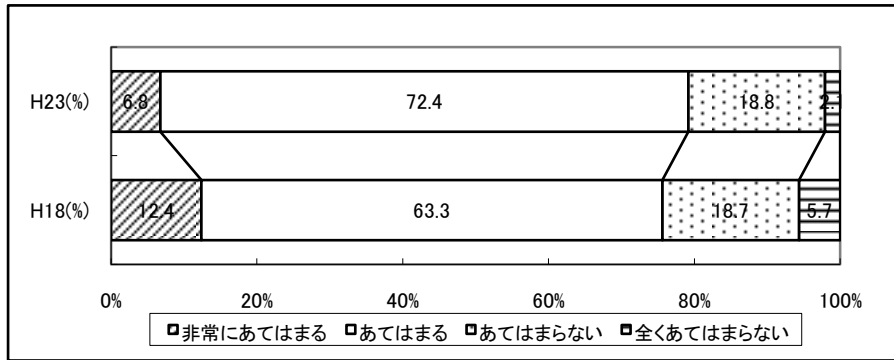
平成23年度からカリキュラム改正を行ったが、その結果が得られるには時期尚早であり、今後追跡する必要がある。

〈学部在學生〉

Q56 専門支持科目または関連科目に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	35	13
あてはまる	179	139
あてはまらない	53	36
全くあてはまらない	16	4
計	283	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	12.4	6.8
あてはまる	63.3	72.4
あてはまらない	18.7	18.8
全くあてはまらない	5.7	2.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

広く全般的に習いたい。

人体構造や生体機能など医学系授業の内容改善(時間が足りなくて何が何だか分からないまま終了。国試を見据えた内容)

【評価と今後の対策】

専門支持科目への満足は平成18年度と比較しわずかに増加が見られ79%であった。しかし、非常に満足との回答が半数に減少し、医学系科目の時間数の不足を挙げていた。

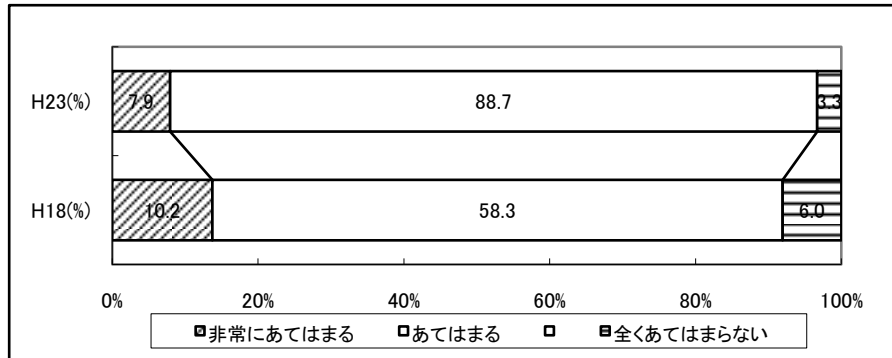
平成23年度からカリキュラム改正を行ったが、その結果が得られるには時期尚早であり、今後追跡する必要がある。

〈学部在生〉

Q57 専門科目講義またはコア科目講義に満足していた。

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	29	12
あてはまる	165	134
あてはまらない		
全くあてはまらない	17	5
計	283	151

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	10.2	7.9
あてはまる	58.3	88.7
あてはまらない		72
全くあてはまらない	6.0	3.3
計	74.6	100.0



【自由記載】

地域保健看護はもっと時間(コマ?)が必要だと思う。地域、産業、学校の連携がわかりづらい。

復習できるように資料や教科書を使って欲しい。

実際に現場で使われている技術や看護理論にしてほしい。

補講をまとめて行ったり、去年は2週間に1回の科目だったのに、今年から急に週1回の授業になったりしている。

【評価と今後の対策】

専門科目またはコア科目の講義への満足は平成18年度と比較し7ポイントの増加が見られ96%であった。しかし、非常に満足との回答が約半数に減少し、現場で使われる技術や看護理論への要望や復習できるように教科書等の使用の要望があった。また、地域保健看護科目の時間数増加が必要との声があった。

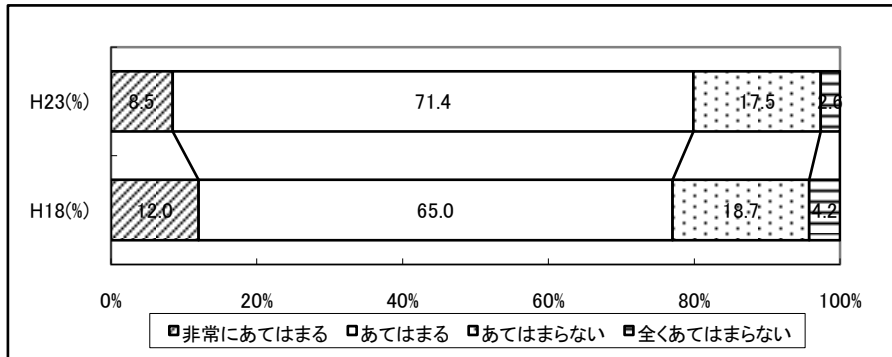
平成18年度にも教科書の活用の改善策が出されたが、継続的に検討が必要である。カリキュラムが改正され地域保健看護科目は増加されているため、継続的な評価が必要である。

〈学部在学学生〉

Q 58 専門科目演習またはコア科目演習に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	34	16
あてはまる	184	135
あてはまらない	53	33
全くあてはまらない	12	5
計	283	189

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	12.0	8.5
あてはまる	65.0	71.4
あてはまらない	18.7	17.5
全くあてはまらない	4.2	2.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

少ない

実際に現場で使われている技術や看護理論にしてほしい。

採血用の模型もあつたら嬉しい。手作りもありがたいですが。

事前に学生が学習してきたことを基本にするのはやめてほしい(結局訂正されたり、時間がなくて流されたり)。

【評価と今後の対策】

専門科目またはコア科目の演習への満足は平成18年度と比較しほとんど同様で、8割程度であった。しかし、非常に満足との回答が3分の2に減少していた。要望として現場で使われる技術や看護理論、また模型の活用があがった。

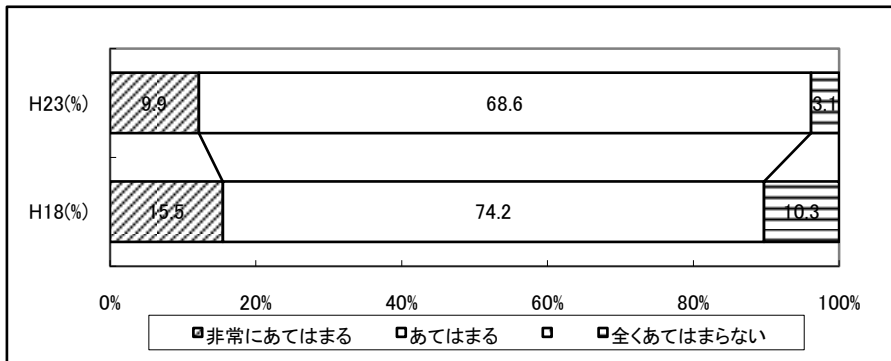
平成18年度にあがったゆとりのなさ、時間延長、物品不足、教員間の指導の差、臨場感のなさなどの不満はみられなかった。もっと、現場の状況ととりいれた判断能力を養う技術教育を行う演習の検討が必要と考える。

〈学部在學生〉
Q59 専門科目(実習)に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	30	19
あてはまる	144	131
全くあてはまらない	20	6
計	194	191

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	15.5	9.9
あてはまる	74.2	68.6
全くあてはまらない	10.3	3.1
計	100.0	81.7

あてはまらない



【自由記載】

臨床に弱い先生がつくと、実習場に迷惑を掛けた。先生が。

自分で施設を選んだわけではないのに交通費、宿泊費等が自費。もっと援助してほしい(特に離島)。

場所が遠すぎる所がある。

2人

交通が不便

もう少し長期でゆとりある実習が良い

気を使う。

小児実習 I で保育士が評価するのは視点が違うので、担当教諭がした方が良いのでは。

【評価と今後の対策】

専門科目(実習)への満足は平成18年度と比較しかなり増加し、8割程度であった。しかし、実習施設にかかる交通や宿泊等の負担について、また、実習指導教員の指導力や看護職者でない指導者からの評価についての不満があがった。

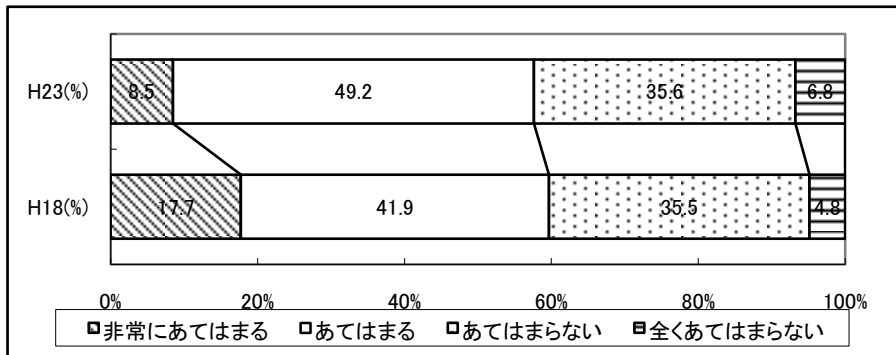
平成18年度にあがった記録物への負担やセクハラに関するものはみられなかった。実習指導教員の看護実践力・指導力については向上させるための研修プログラムを検討する必要がある。実習に係る交通や経済的負担感については、本島内については不満は減少しているが、離島実習への援助はさらに検討が必要である。実習評価者について看護職者でない場合の評価の必要性について、学生に説明が必要と考える。

〈学部在學生〉

Q60 卒業論文または助産研究に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	11	5
あてはまる	26	29
あてはまらない	22	21
全くあてはまらない	3	4
計	62	59

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	17.7	8.5
あてはまる	41.9	49.2
あてはまらない	35.5	35.6
全くあてはまらない	4.8	6.8
計	100.0	100.0



【自由記載】

必要性がわからない

国試とのバランスが難しいので、卒論を軽くするか、無くすか、サポート体制を作った方が良いと思う。

先生に意欲がない。

もっと早くやって、早く国試の勉強にとりかかりたかった。

【評価と今後の対策】

卒業論文への満足は平成18年度と比較しやや減少し、6割未満で、非常に満足は半数に減少していた。国試勉強との両立に負担感が考えられた。また、指導教員との関係も不満足に繋がっていた。

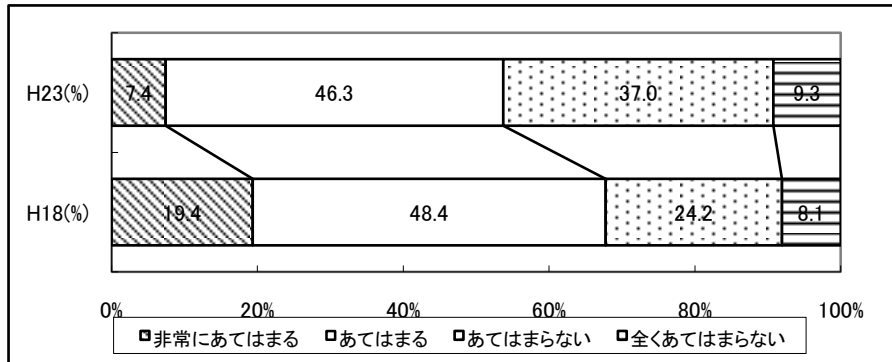
平成18年度では平行して行われる臨地実習や就職活動との関係で不満足感があがったが、今回は国試対策との平行が不満足に繋がっていた。卒論の終了を毎年早めていることや、カリキュラム改正を行って選択制にしたことからその結果を追跡する。また、指導教員については前回からの課題であり、学生の声の共有が必要と考える。

〈学部在學生〉

Q61 原著購読に満足していた。

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	12	4
あてはまる	30	25
あてはまらない	15	20
全くあてはまらない	5	5
計	62	54

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	19.4	7.4
あてはまる	48.4	46.3
あてはまらない	24.2	37.0
全くあてはまらない	8.1	9.3
計	100.0	100.0



【自由記載】

たくさん時間を設けなくてもいいかなって思う。その分早く卒論を終わらせたい。2人本による、色々なものから分かりやすくまとめてあるのがあって、それはよかった。

【評価と今後の対策】

原著購読への満足は平成18年度と比較しかなり減少し過半数程度で、非常に満足は3分の1程度に減少していた。卒論にその時間を組み込むなどの要望があがり、原著購読の目的の理解不足が考えられた。

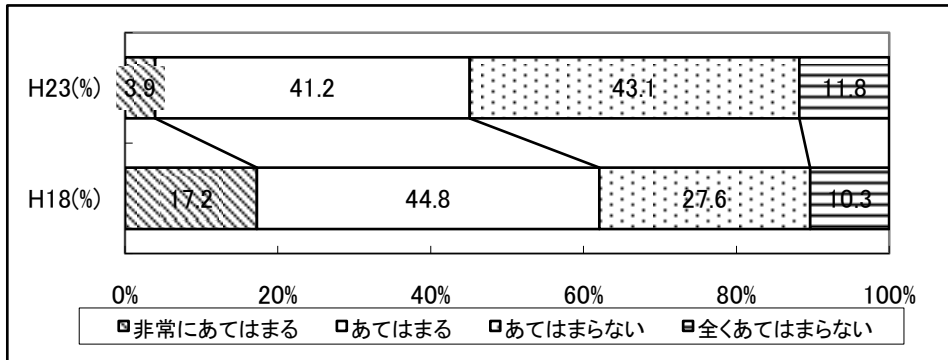
卒論と原著購読の科目の目的と関係性への説明が必要と考える。

〈学部在学学生〉

Q62 統合実習に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	10	2
あてはまる	26	21
あてはまらない	16	22
全くあてはまらない	6	6
計	58	51

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	17.2	3.9
あてはまる	44.8	41.2
あてはまらない	27.6	43.1
全くあてはまらない	10.3	11.8
計	100.0	100.0



【自由記載】

今回、実習が終わってからレポートの請求があったりと大変だったので、一貫した指導を行ってほしい。
3人
前期にもってきてほしい。好機だと月曜日がないため実習日が変則。精神的にも負担。

【評価と今後の対策】

統合実習への満足は平成18年度と比較しかなり減少して半数を下回り、非常に満足も激減していた。実習終了後の記録の提出や、指導の一貫性の不足が不満としてあがった。また、月曜日を実習に使えないことも不満としてあがった。

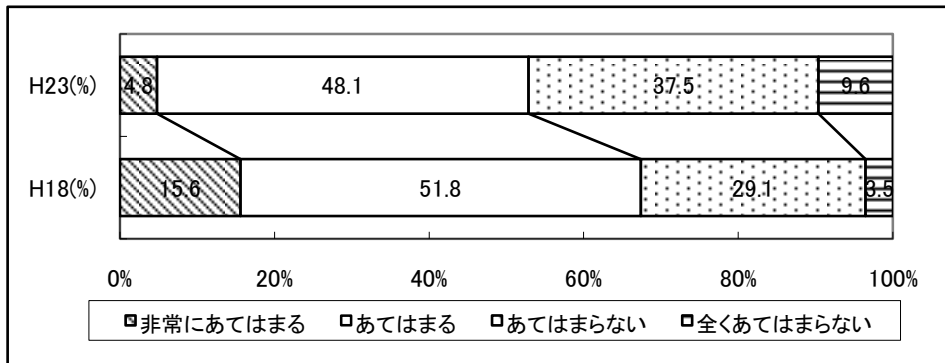
統合実習の内容に変更があったが、全体に浸透していなかったことが学生への不満に繋がったと考えられるため、指導教員・学生への周知を徹底することが必要と考える。また、カリキュラム改正があったことから、連続した実習組み立てを検討する。

〈学部在生〉

Q63 研究の導入 I・II または研究への導入に満足していた

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	22	5
あてはまる	73	50
あてはまらない	41	39
全くあてはまらない	5	10
計	141	104

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	15.6	4.8
あてはまる	51.8	48.1
あてはまらない	29.1	37.5
全くあてはまらない	3.5	9.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

内容が難しかったので、具体的にどのように研究を進めていくか、どのような研究方法があるかを示して欲しい。

意味不明 2人

さわりくらいだけでもいいかなって思う。実際そんなに使っていない。

【評価と今後の対策】

研究への導入への満足は平成18年度と比較しかなり減少して半数程度になり、非常に満足も激減していた。内容の難しさがあがった。

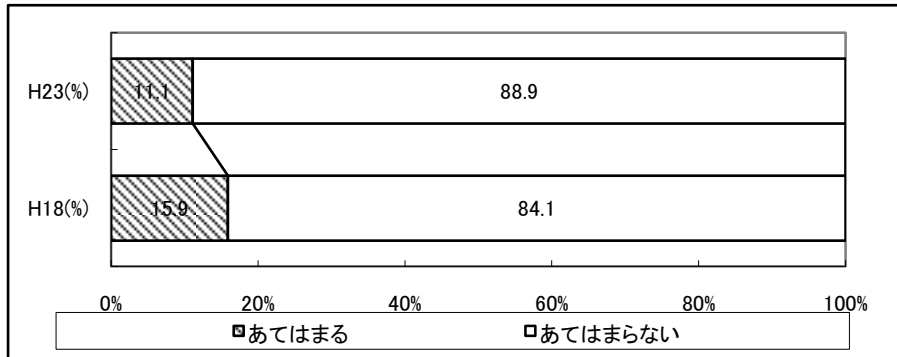
学生の理解度にあつた指導方法を継続して検討する。

〈学部在學生〉

Q64 不足していた科目・学習内容があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	41	20
あてはまらない	217	160
計	258	180

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	15.9	11.1
あてはまらない	84.1	88.9
計	100.0	100.0



【自由記載】

タイ語
カンボジア語
基礎看護方法
在宅看護論
生体
病態生理
人体
解剖生理
薬理
病理

他の授業とかで「基礎看護でやったでしょ？」とよく言われるがやったことのないものが多すぎる。
独立した教科となって良いと思う。
授業数、増やしてほしい。3人
1年次だけでなく、もっと増やしてほしい。2人
2年次だけでなく、もっと増やしてほしい。3人
時間数が少ない。2人
時間少ない。

【評価と今後の対策】

不足している科目・学習内容については平成18年度と比較し減少して1割程度であった。しかし、基礎医学系の科目については時間数が不足しているとの声が多かった。

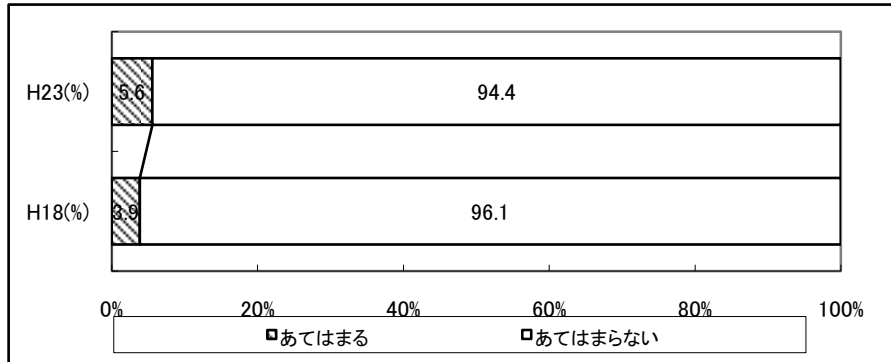
平成23年度からカリキュラム改正をしており、基礎医学系の科目も増やしたことから、その結果を追跡する。

〈学部在学学生〉

Q65 重複していた科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	10	10
あてはまらない	249	169
計	259	179

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	3.9	5.6
あてはまらない	96.1	94.4
計	100.0	100.0



【自由記載】

重要なら重複しても良いと思う。

小児保健看護方法Ⅱ・疾病Ⅲ 内容が重複していたように思う。

基礎医学系科目 高血圧と循環器の話が多すぎる

倫理と看護方法Ⅳ2人

【評価と今後の対策】

重複している科目については平成18年度と比較しわずかに増加したが、1割未満であった。科目によっては重複はあるが、重要ならそれも良いとの声であった。

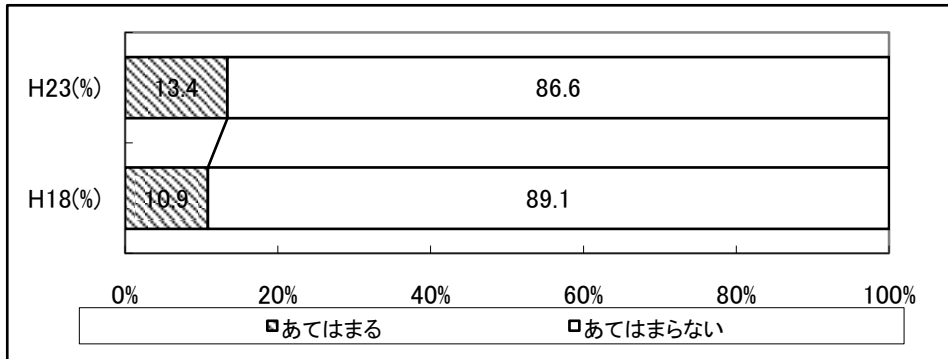
重複する科目については特に問題はないと考える。

〈学部在生〉

Q 66 本学の特徴として残したい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	28	24
あてはまらない	230	155
計	258	179

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	10.9	13.4
あてはまらない	89.1	86.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

基礎医学の講義全般

島嶼看護 沖繩の特徴でもある島嶼について学びを深めれて良かったと感じたから。4人

看護方法 5人

地域実習 保健所・市町村両方行きたかった。

看護学原論

国際 沖繩県という特徴

心理学 看護の考え方にもつながるし、おもしろかった。

英語講読 国際的な視野が広がるチャンス

専門科目は大事だと思う。

【評価と今後の対策】

本学の特徴として残したい科目については平成18年度と比較しわずかに増加したが、1割程度であった。沖繩県の特徴である島嶼看護、国際的な視野が広がる英語科目、国際看護があがった。ほか、地域実習、基礎看護科目、心理学があった。

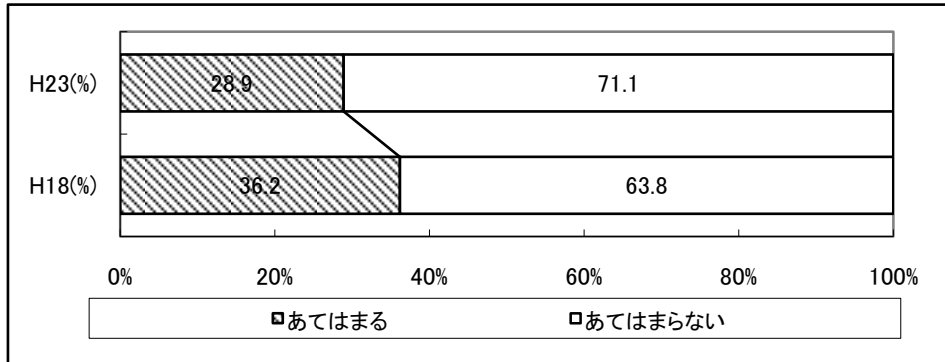
全学挙げて臨地実習をとおして島嶼看護の教育を強化しているが、学生への成果としては未だ現れていない。学生の声を吸い上げる工夫が必要である。

〈学部在學生〉

Q67 教育方法を改善してほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	93	52
あてはまらない	164	128
計	257	180

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	36.2	28.9
あてはまらない	63.8	71.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

- 生物 もっと違う方向からも学びたかった。意味ある授業にしてほしい。8人
 統計学 何を学んでほしいのかわからなかった。分かりづらい。説明の仕方が難しい。6人
- 教育学 7割はムダ話だった。
 成人保健看護方法 分かりづらい。説明の仕方が難しい。実習の記録につなげられない。7人
 化学 2人
 哲学 生徒の意見を肯定的に受け止めない時が多い。3人
 看護方法 I 看護師になれるか不安になるから。自習学習が多すぎて、やっても当たっているのかわからない。2人
- 病理 課題多すぎて、終わらせるのを重視するから全く頭に入らない。
 薬理 授業数少なくて何もわからない。
 全科目 レポート提出が同じ週に集中していると死ぬ。
 疫学 3年後期の学習がよい。
 統合実習 カリキュラム変更は大変だった。また実習後に記録物追加は大変だった。2人
 地域保健看護学 教員の熱意は感じられるが、分かりにくく資料が見にくく感じる。5人
 成人看護実習・基礎看護実習 似ているので、成人を基礎看に含める。
 卒業論文

【評価と今後の対策】

教育方法を改善してほしい科目は平成18年度と比較しわずかに減少が見られ、3割未満であった。改善してほしい科目は哲学、化学、生物学、統計学、疫学、教育学、病理学、薬理学、基礎看護学、看護方法 I、基礎看護実習、成人看護実習 I、成人保健看護方法 I、地域保健看護概論、統合実習、卒業論文であった。改善してほしい点は教員の態度、説明の仕方、講義内容、レポートの出し方、課題の量・出し方、授業時間数の少なさ、実習との繋がり、単調さなどがあり、統合実習では最終レポートの出し方、急な内容・レポート変更、領域による記録物の差などが不満として上がった。卒論は国試勉強との関連で時期の変更希望があった。全体として課題の量が多く、自主学習する時間が不足との声があった。

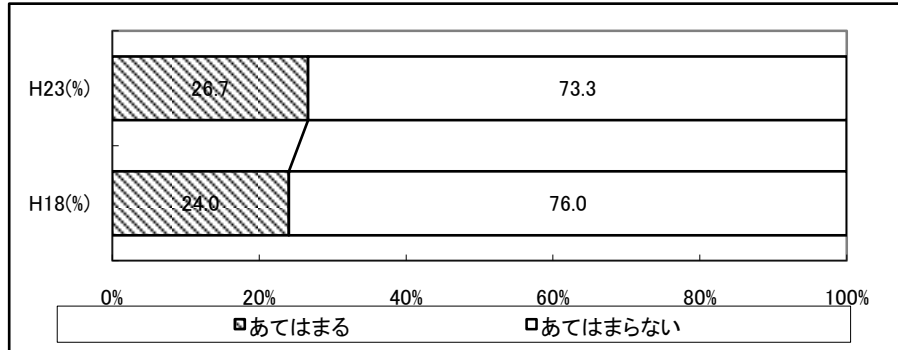
全学的に教育方法の改善ならびに他の科目の共通理解のためのFDを行う。また、変更のある科目については教員・学生への周知徹底を図ることが必要である。卒論については早めに終了するよう時期を徐々に早めていることやカリキュラム改正で選択制にしたことから、その結果を追跡する。

〈学部在學生〉

Q68 時間数を増やしてほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	62	48
あてはまらない	196	132
計	258	180

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	24.0	26.7
あてはまらない	76.0	73.3
計	100.0	100.0



【自由記載】

人体・生体	国試前になってもっと学んでおけばよかったと思ったから。
専門科目全般	専門科目なのに授業数が少なすぎる！
生体機能	授業数が少ない。範囲が広いので4年でも国試対策として授業で入れてほしい。12人
薬理	時間数が少なすぎる4人
病態生理	人体のしくみを知る上で、欠かせない科目と思う。5人
人体構造	授業数が少なすぎるが内容は多い 7人
解剖生理	少ない3人
成人演習	少ない
地域保健看護	地域、産業、学校とのつながりが見えにくいため。
学校保健	地域、産業、学校とのつながりが見えにくいため。
病理	
臨地実習	現場に出るようになったら不安が大きい。もっと学習したい3人
成人保健看護学系	大切な内容を表面的にしかできない感じなので。
母性保健看護実習	1週間で褥婦と新生児2人を見るのは、時間が足りなさすぎるので。
基礎看護	実習で使うから
看護方法	その時間だけでは十分に技術を獲得できないから。2人
看護学演習	時間が足りない
疾病学	量が膨大なため 6人
基礎医学系	足りなさ過ぎだと思ふ

【評価と今後の対策】

時間を増やしてほしい科目は平成18年度と比較し27%にわずかに増加が見られた。科目は生体機能学、人体構造学、病態生理学、薬理学、疾病学、看護方法・演習、成人保健看護・演習、地域保健看護、学校保健、母性保健看護実習Ⅱ、臨地実習全般、専門科目全般等があがった。

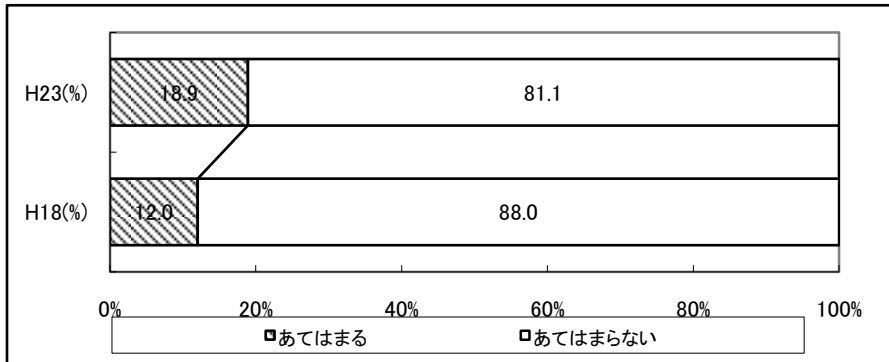
基礎医学系の科目の増加はカリキュラム改正で行っており、その結果を追跡する。他の科目もカリキュラム改正の結果をみて検討することが必要と考える。

〈学部在學生〉

Q69 時間数を減らしてほしい科目があった

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	31	34
あてはまらない	227	146
計	258	180

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	12.0	18.9
あてはまらない	88.0	81.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

- 化学 教科書を読むだけの講義なら自己学習で可能なため。5人
- 生物学 講義が成り立っていなかったため。6人
- 老年 多い
- 倫理学 4年次の後期になって2コマ連続は大変だった。4人
- 哲学 看護とかけ離れていて難しかった。
- 原著講読 たくさん時間を設けなくてもいいかなって思う。その分早く卒論を終わらせたい。
- 外国語全般 後々看護系が詰まって大変。1年次からもっと医学・看護系の学習をした方が。5人
- 社会学・教育学全般 後々看護系が詰まって大変。2年次からもっと医学・看護系の学習をした方が。4人
- 看護学原論

【評価と今後の対策】

時間を減らしてほしい科目は平成18年度と比較し2割近くまで増加がみられた。科目は化学、生物学、社会学・教育学関連科目、看護学原論、英語を含む外国語、哲学、老年、倫理学があった。理由は高校ですでに学んでいる、看護とかけ離れていて難しい、その分国試に取り組みたい、専門を重視したいなどであった。基本科目については高校での既習状況の把握と内容の検討が必要と考える。外国語については目的の理解に向けた学生への周知が必要である。ほか、カリキュラム改正したことからその結果の追跡を行う。